

総論

満点	40点	目標得点	30点	試験時間	60分	偏差値	74
大問数	5	小問数	38				
【解答形式】		選択式	37/38問	記述式	0/38問	論述式	1/38問
【問題難易度】		C	4/38問	B	15/38問	A	19/38問

※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す

Topics

- 1：例年通り、選択・正誤判定問題で大問4つ、200字程度の論述問題が1題の大問5題による構成。
- 2：問題の大半を占める正誤判定問題は細かい知識を要求する難問もあり、全体の難易度を押し上げている。
- 3：論述問題は例年通り、近現代史からの出題。指定語句から論述の大筋を把握すれば十分に対応可能。

こんな力が求められる！

同じく正誤判定問題中心のセンター試験と比較すると各選択肢の文章が長く、各分野の細部にわたる知識を必要とするためはるかに難易度は高い。センター試験で90%くらいの得点力があれば、本問題とも十分にわたりあえる。

参考図書

お茶ゼミテキスト、お茶ゼミ問題集、教科書、用語集、史料集・図説（地図が記載されているもの）

データ&全体傾向

[前年度(2008)合格者最低点（3科目）] 93.0点（得点率 62.0%）
 [前年度(2008)受験者平均点（世界史）] 23.83点

今年度は出題数38（うち論述1問）、解答形式はマークセンス中心に200字程度の論述問題を含むというスタイルで例年からの大きな変更は見られなかった。難易度としてはいくつか難問も見受けられる一方で、センター試験レベルの基本的な問題も見られる。世界史において高い完成度をほこる浪人生に対し、現役生が彼らと互角に戦うためには間違えてはいけない基本的な問題を確実に得点できるかが非常に重要となってくる。論述問題を除く37問のうち、絶対に間違えてはいけない正当すべき問題が5割程度、合否の分かれ目となる問題が4割程度、教科書レベルを超えている難問が1割程度である。前年度合格最低点の得点率（62.0%）を考えると基本問題を確実に正解し、その他の問題で半分程度の正解があると他科目の得点状況にもよるが十分、合格ラインに達する見込みである。従って、早稲田だからといって難問・奇問対策に走るのではなく、まずは基本問題を確実に得点できる安定性を身に付けたい。

また、今年度は東南アジア史やアフリカ史など現役生にとって対策が後手に回りがちな地域が数多く出題されている。本学部を目指す受験生は特定の地域や時代にやりのこしを作ってはならない。

大問別分析

【I】

予想配点	8 / 40 点	時間配分の目安	8 / 60 分
出題分野・テーマ	前近代の中国史		
出題形式	正誤・選択		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	・3月期②－4日目 ・4月期－1回、2回 ・6月期－3回、4回 ・10月期－2回、3回、4回 ・12月期－2回		

●小問別難易度&解答のポイント等

設問4 (C: 難問)

租庸調制と両税法の細かい内容を問う難問。租庸調は隋代初期には夫婦を課税の対象としたが、煬帝によって婦人の負担が無くなり、唐代には丁男(成人男性)を対象とした。また、地方での臨時の労役に当たる雑徭は丁男だけではなく中男(未成年男性)にも課された。

設問6 (C: 難問)

王安石による新法の細かい内容を問う難問。新法のうちの一つ募役法は差役(労役奉仕)を免除する代わりに免役金を徴収し、この徴収した金で差役を希望する者を雇うというものである。様々な特権を持っていた官戸および寺観(寺および道観)からも助役金という名目で金銭を徴収していた。

【II】

予想配点	9 / 40 点	時間配分の目安	9 / 60 分
出題分野・テーマ	東南アジア半島部の歴史		
出題形式	正誤・選択		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	・4月期－3回 ・近代史(夏期講習)－5日目 ・中国周辺史(冬期講習)－2日目		

●小問別難易度&解答のポイント等

設問3 (B: 合否を分ける問題)

フランス領インドシナ連邦の総督府はハノイに置かれた。ハノイとサイゴン(現ホーチミン)の場所は地図で確認しておくこと。

設問4 (B: 合否を分ける問題)

東南アジアに限らず地理上の位置の理解が不十分な地域は苦手分野になる可能性が高い。少なくとも東南アジアにおける各地域の王朝の変遷と現在の東南アジアに存在する国(全11カ国)の名称は確実に押さえておくこと。

設問6 (B: 合否を分ける問題)

モン人とはビルマ(現ミャンマー)からタイにかけて勢力を保ちインド系文化を受容した先住民である。ピュー人はパガン朝成立以前にビルマに勢力を築いていたが彼らの王国は9世紀に滅亡する。

設問9 (B: 合否を分ける問題)

東南アジアが出題される際にはアンコール=ワットに関する問題は頻出である。アンコール=ワットは真臘(アンコール朝)時代の12世紀に建設されたヒンドゥー教寺院であった(従って『ラーマーヤナ』や『マハーバーラタ』の場面の浮彫が回廊に存在する)が、14世紀頃から仏教寺院へと改修され今日に至る。正誤判定問題のパターンとしてはアンコール朝の王都遺跡であるアンコール=トムとの識別

Benesse® お茶の水ゼミナール

問題（選択肢①）、シャイレンドラ朝時代のジャワ島に建設されたボロブドゥールとの識別問題がよく出題される。

【Ⅲ】

予想配点	9 / 40 点	時間配分の目安	9 / 60 分
出題分野・テーマ	古代から近代までの西洋における政治制度や議会		
出題形式	正誤・選択		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	・ 3月期①－2日目、3日目 ・ 5月期－3回 ・ 6月期－3回 ・ 近代史（夏期講習）－1日目 ・ 西洋史前近代史5つのテーマ（夏期講習） ・ 9月期－4回 ・ 地中海周辺史（冬期講習）－1日目、2日目		

●小問別難易度&解答のポイント等

設問6（B：合否を分ける問題）

17世紀ステュアート朝のイギリスは絶対王政を維持しようとする国王とそれを抑制しようとする議会との対立の時代である（ピューリタン革命や名誉革命はその象徴）。その過程で王権を抑制する様々な要求が為される。これらを整理すると、

権利の請願 … チャールズ1世時代

人身保護法、審査法 … チャールズ2世時代

権利の宣言、権利の章典 … ウィリアム3世、メアリ2世時代 となる。

設問7（B：合否を分ける問題）

フランス革命期（1789～99）はその10年の間に社会状況が目まぐるしく変化するため、受験で取り扱う内容としても非常に密度の高い分野である。王政→立憲君主政→共和政（第一共和政）への流れを議会の組織・名称の変化とともに丁寧に確認しておきたい。選択肢1と3は基本レベル。1に関しては、財政改革のためにルイ16世が起用した人物はネッケル（スイスの銀行家）やテュルゴー（フランスの重農主義者）などが該当する。ダントンは国民公会時代に公安委員となって反革命派の弾圧に当たり、後にロベスピエールと対立して処刑された人物。また3に関しては、立法議会時代と国民公会時代の出来事が混ざっていて史実としてあり得ない文章。間違ってもこれらの選択肢を選んではいけない。選択肢2は国民議会が封建的特権の廃止を発表した後に人権宣言が採択されたため誤りとなる。バスティーユ牢獄襲撃に対する国民議会の対応を正確に押さえておくことが必要となる。

【Ⅳ】

予想配点	8 / 40 点	時間配分の目安	9 / 60 分
出題分野・テーマ	アメリカ合衆国近代史		
出題形式	正誤・選択		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	・ 近代史（夏期講習）－2日目 ・ 現代史（夏期講習）－1日目、2日目 ・ 文化史（夏期講習）－1日目、2日目 ・ アメリカ史（冬期講習）－2日目		

●小問別難易度&解答のポイント等

設問1（B：合否を分ける問題）

南北戦争の結果、憲法修正13条によって奴隷制度の廃止が規定されたが、解放された黒人の多くは地主の下で耕作に従事し、収穫の多くを地主に支払う小作人（シェアロッパー）になったため貧困状態から脱却できなかった。

Benesse お茶の水ゼミナール

設問3 (B: 合否を分ける問題)

まず、近代における産業資本家たちは資本主義の根底となるアダム＝スミスの自由放任主義と19世紀に登場したダーウィンの進化論を結びつけることで自らの圧倒的な経済力が他者を支配する弱肉強食の世界を肯定していたことを知っているかが要求される。それを知った上で問題文をよく読み、どの位置にどの語句は当てはまるかを考える国語力が要求される。

設問4 (B: 合否を分ける問題)

アメリカで成立した労働組合としては1886年にサミュエル＝ゴンパーズを会長として熟練労働者により結成されたアメリカ労働総同盟(AFL)と1938年にAFLから分離独立した未熟練労働者を中心とする産業別組織会議(CIO 1935年設立)の2つを押さえていれば十分である。なおこの両組織は第二次世界大戦後、冷戦の影響で保守化し1955年には再び合同することとなる。

設問5 (B: 難問)

新保守主義とは国内の様々なサービスを民間に開放しようとするいわゆる「小さな政府」を目指す政治上の考えを指し、1980年代におけるイギリスのサッチャー、アメリカのレーガン、日本の中曽根政権などに見られる動きである。この用語は教科書にもほとんど記載されていない上に現役生が手薄となる第二次世界大戦後の知識を要求することからも難易度の高い問題である。

設問6 (C: 難問)

19世紀前半のアメリカ合衆国と中南米諸国との細かな知識を問う難問。ほとんどの教科書に記載のない「宣教師外交」とはウィルソン大統領の中南米諸国に対するスタンスを表現したものでセオドア＝ローズヴェルトの「棍棒外交」やタフトの「ドル外交」とは異なり、合衆国の道徳優位性を中南米諸国に示すことでこれらの地域に対する指導力を強化しようとする方針を意味する。なお、メキシコ、コロンビア、アルゼンチンは第一次世界大戦には参戦していない。

【V】

予想配点	6 / 40 点	時間配分の目安	25 / 60 分
出題分野・テーマ	19世紀から20世紀後半における北アフリカ植民地の展開		
出題形式	論述(200~250字)		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連			
・近代史(夏期講習) - 2日目、3日目			
・現代史(夏期講習) - 1日目			
・9月期 - 2回、4回			
・10月期 - 1回			
・12月期 - 1回、2回			
・イスラム史(冬期講習) - 2日目、3日目			

●小問別難易度&解答のポイント等

(B: 合否を分ける問題)

国公立大学によく見られる歴史的意義を問うものではなく、純粋に歴史のストーリーを問うものであり、さらに4つの指定語句で出題者がある程度論述の流れを誘導しているので全く手も足も出ないというレベルの問題ではない。「オスマン帝国の勢力下にあった北アフリカ一帯に対し、フランスはシャルル10世時代にアルジェリアを支配し、さらに第三共和政期にはその支配勢力をモロッコやチュニジアに拡大させた。」という流れはすぐに思いつかなければいけない(ここまで書ければ部分点はある程度稼げると思われる)。厄介なのは「民族解放戦線」という語句をどう使うかであろうが、問題文は20世紀後半の展開まで論述せよとの条件があるため、ここまでの記述で扱っていない20世紀後半の部分、すなわちこれらの地域がフランスから独立していく過程で使うという推測はできる。問題文をよく読み、出題者が要求していること(何を書くのか、その際に守らなければならない条件や時間・空間的範囲)を踏まえた上であがけるだけあがけばそれなりの点数は獲得できる。

Benesse® お茶の水ゼミナール

お茶ゼミ世界史のカリキュラムでは論述問題が課される者で希望者に対しては実際に文章を書くトレーニングを9月以降に少しずつ行う予定なので該当者は心しておくこと。